



## 第1章

# 矢田地域における多機関連携による子ども支援ネットワーク

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大学都市科学・防災研究センター 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袈裟丸, 朝子, 矢野, 淳士 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/0002000480">http://hdl.handle.net/10466/0002000480</a>

## 第1章

### 矢田地域における多機関連携による子ども支援ネットワーク

袈裟丸朝子（NPO 法人人権尊重の矢田まちづくり委員会）

矢野淳士（AKY インクルーシブコミュニティ研究所）

本章では、2022年11月24日に大阪公立大学学術情報総合センターで開催された「第1回ヤングケアラーと子どもの不利を考える研究会」の概要を報告するとともに、矢田地域の子ども支援ネットワークにおいて地域と学校の連携を担う地域連携担当教員の役割について述べる。

#### 1 第1回研究会の概要報告

第1回研究会では、一般社団法人大阪市東住吉人権協会（以下、人権協会）の岸本里美理事長を講師に招き、矢田地域における「多機関連携による子ども支援ネットワーク」に関する報告を受けた。当日は会場とオンラインを合わせて約60名が参加した。

まず、冒頭で岸本さんは「地域住民・大衆の思いをしっかりと受けとめる、それが解放運動だ」と語り、現在の子ども支援をはじめとした様々な地域の取組の根本には、部落解放運動の経験や理念が継承されていると述べた。その後、人権協会の事業である総合生活相談や公衆浴場「ふれ愛温泉矢田」について紹介した上で、研究会のメインテーマである「地域子育て支援ネットワーク会議」（以下、ネットワーク会議）について報告した。矢田地域では、子どもを育てる家庭を側面から支えるべく、地域団体だけでなく教育機関や行政機関も参画し、日常的に連携を深めることで、地域社会に密着した総合的な子育て支援システムを構築することを目指し、2004年にネットワーク会議を立ち上げた。同会議の座長である岸本さんは、ケースとして取り組んできた様々な事例を交えて、長年の取り組みから見てきたこととして、地域や子ども食堂などでキャッチする子どもに関する情報はとても重要であると述べ、近年子どもを取り巻く状況が深刻化するなか、多面的なセーフテ

インターネットの必要性が高まっていると訴えた。

質疑応答では、参加者から「介入を拒む家庭にどう入り込むのか」「学校と外部との連携がむずかしい」「地域連携担当という仕組みは大阪全市や全国にひろげるべきなのでは」といった質問や意見が出され、講演後の交流会でも活発な議論が交わされた。

## 2 地域連携担当教員の役割

各校によって兼任、専任の違いはあるが、矢田地域の小中学校 7 校全校に地域連携担当という役職の教員が配置されている。地域連携担当とは、同和対策事業の中で担当教員が「解放子ども会」に出向していたことが始まりである。現在は矢田同和教育推進協議会<sup>1</sup>の中で「矢田子どもつながり連絡協議会」や「ワールド交流をつなげようの会<sup>2</sup>」の運営を担っている他、様々な課題を抱えた家庭への支援、不登校児童への対応、保護者からの子育て相談や転出入児童の情報共有等、地域や各行政機関との連携を図りながら、幅広い業務を行っている。

矢田地域では、「子育て支援ネットワーク会議」（人権協会が中心となり、

---

<sup>1</sup> 矢田地区では、1958年に結成された部落解放同盟矢田支部が中心となり、行政に対する要求闘争の一環として1965年に地区内の実態調査が行われた。その調査結果から差別越境入学や劣悪な教育環境といった課題が浮き彫りになり、矢田は「教育のまち」を目指すという方針が打ち出された。こうした教育のまちづくりという目標のもと、1967年に矢田支部の主導により矢田同和教育推進協議会が設立され、それ以降矢田の解放教育の推進母体となっている。

<sup>2</sup> 矢田地域の小中学校では、1970年代から民族学級「チョソン友の会」が取り組まれてきたが、1990年代からニューカマーの子どもが増加したことを受け、「中国の子の集い」（1998年～）や「新規渡日の子の集い」（2002年～）が開始された。2017年度からは、大阪市教育委員会の通知により各校の民族学級を「国際クラブ」として名称を統一することとなったことをきっかけとして、「中国の子の集い・新規渡日の子の集い」に「チョソン友の会」の子どもや保護者にも参加を呼びかけ、「ワールド交流をつなげようの会」という料理会が毎年開催されている。

NPO 法人教育・夢ねっと矢田、東住吉区役所、大阪市こども相談センター、東住吉区社会福祉協議会、矢田生協医療センター、主任児童委員、矢田教育の森保育所・やたなか小中一貫校で構成) が月 1 回開催され、課題のある子どもや家庭の情報共有や、具体的な支援策についての話し合いが行われている。やたなか小中一貫校の地域連携担当は、同和主担教員とともに矢田 7 校の代表として会議に出席し、各構成団体と連携しながら課題解決に向けて各家庭に寄り添った支援を行っている。

このように、地域連携担当は普段の学校生活の中で学級担任だけでは気付くことができない子どもや保護者の課題を把握し、支援につなげていく役割を担っている。